

離散数理工学 第4回 数え上げの基礎：漸化式の解き方（発展）

岡本 吉央
okamotoy@uec.ac.jp

電気通信大学

2015年11月10日

最終更新：2015年11月11日 08:30

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2015年11月10日 1 / 53

スケジュール 後半（予定）

9 離散確率論：確率の復習と確率不等式	(12/15)
* 中間試験	(12/22)
10 離散確率論：確率的離散システムの解析	(1/5)
11 離散確率論：乱択データ構造とアルゴリズム（基礎）	(1/12)
12 離散確率論：乱択データ構造とアルゴリズム（発展）	(1/19)
13 離散確率論：マルコフ連鎖（基礎）	(1/26)
14 離散確率論：マルコフ連鎖（発展）	(2/2)
* 予備日	(2/9)
* 期末試験	(2/16?)

注意：予定の変更もありうる

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2015年11月10日 3 / 53

目次

- ① 母関数
- ② 線形漸化式の厳密解法
- ③ より複雑な漸化式の解法
- ④ カタラン数：定義と導出
- ⑤ 今日のまとめ

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2015年11月10日 5 / 53

例 1

数列 $1, 1, 1, 1, 1, 1, \dots$ の母関数は？

任意の自然数 $n \geq 0$ に対して、 $a_n = 1$ とすると、

$$\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n = \sum_{n=0}^{\infty} 1 \cdot x^n = \frac{1}{1-x}$$

数列 $1, 2, 4, 8, 16, 32, 64, \dots$ の母関数は？

任意の自然数 $n \geq 0$ に対して、 $a_n = 2^n$ とすると、

$$\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n = \sum_{n=0}^{\infty} 2^n x^n = \sum_{n=0}^{\infty} (2x)^n = \frac{1}{1-2x}$$

一般に、 $a_n = \alpha^n$ で定められる数列の母関数は $\frac{1}{1-\alpha x}$

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2015年11月10日 7 / 53

スケジュール 前半（予定）

1 数え上げの基礎：二項係数と二項定理	(10/6)
* 休講（体育祭）	(10/13)
2 数え上げの基礎：漸化式の立て方	(10/20)
3 数え上げの基礎：漸化式の解き方（基礎）	(10/27)
* 祝日で休み	(11/3)
4 数え上げの基礎：漸化式の解き方（発展）	(11/10)
5 離散代数：整数と有限体	(11/17)
6 離散代数：多項式環	(11/24)
7 離散代数：多項式環による有限体の構成	(12/1)
8 離散代数：有限体の応用	(12/8)

注意：予定の変更もありうる

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2015年11月10日 2 / 53

今日の目標

今日の目標

母関数を用いて漸化式を解けるようになる

- ▶ 線形漸化式の解法
- ▶ より複雑な漸化式の解法
- ▶ カタラン数

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2015年11月10日 4 / 53

母関数

数列 $a_0, a_1, a_2, a_3, a_4, \dots$ の母関数とは幕級数

$$\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$$

のこと (x は複素数)

仮定

この幕級数は収束する

- ▶ 特に、ある定数 $r > 0$ が存在して $|x| < r$ のとき収束するとする
- ▶ つまり、 $|x| < r$ のとき、 $x \mapsto \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ は well-defined

収束するので、『微分積分学』、『解析学』、『複素関数論』の知識が使える

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2015年11月10日 6 / 53

例 2

数列 $0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, \dots$ の母関数は？

任意の自然数 $n \geq 0$ に対して、 $a_n = n$ とすると、

$$\begin{aligned} \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n &= \sum_{n=0}^{\infty} nx^n = \sum_{n=0}^{\infty} x \cdot \frac{d}{dx} x^n \\ &= x \frac{d}{dx} \sum_{n=0}^{\infty} x^n = x \frac{d}{dx} \frac{1}{1-x} = \frac{x}{(1-x)^2} \end{aligned}$$

岡本 吉央（電通大）

離散数理工学(4)

2015年11月10日 8 / 53

数列 1, 4, 7, 10, 13, 16, 19, … の母関数は?

任意の自然数 $n \geq 0$ に対して, $a_n = 3n + 1$ とすると,

$$\begin{aligned} \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n &= \sum_{n=0}^{\infty} (3n+1)x^n = 3 \sum_{n=0}^{\infty} nx^n + \sum_{n=0}^{\infty} x^n \\ &= \frac{3x}{(1-x)^2} + \frac{1}{1-x} \\ &= \frac{3x}{(1-x)^2} + \frac{1-x}{(1-x)^2} \\ &= \frac{2x+1}{(1-x)^2} \end{aligned}$$

a_n = グラフ P_n における独立集合の総数 とする

漸化式

$$a_n = \begin{cases} 2 & (n=1 \text{ のとき}) \\ 3 & (n=2 \text{ のとき}) \\ a_{n-1} + a_{n-2} & (n \geq 3 \text{ のとき}) \end{cases}$$

これを解いてみる

- ▶ 特性方程式を用いた方法 (前回)
- ▶ 行列を用いた方法 (前回)
- ▶ 母関数を用いた方法 (今回)

1 両辺に x^n を掛けて、級数を作る

$n \geq 2$ のとき

$$\begin{aligned} a_n &= a_{n-1} + a_{n-2} \\ \therefore a_n x^n &= a_{n-1} x^n + a_{n-2} x^n \end{aligned}$$

したがって、

$$\sum_{n=2}^{\infty} a_n x^n = \sum_{n=2}^{\infty} a_{n-1} x^n + \sum_{n=2}^{\infty} a_{n-2} x^n$$

母関数を $A(x) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ と書くことにする

3 得られた式を $A(x)$ に関して解く

$$\begin{aligned} A(x) - 1 - 2x &= xA(x) - x + x^2 A(x) \\ \therefore (x^2 + x - 1)A(x) &= -x - 1 \\ \therefore A(x) &= -\frac{x+1}{x^2 + x - 1} \end{aligned}$$

$A(x)$ を x の有理関数として表現できた

① 母関数

② 線形漸化式の厳密解法

③ より複雑な漸化式の解法

④ カタラン数：定義と導出

⑤ 今日のまとめ

① a_0 を便宜上定める

漸化式

$$a_n = \begin{cases} 2 & (n=1 \text{ のとき}) \\ 3 & (n=2 \text{ のとき}) \\ a_{n-1} + a_{n-2} & (n \geq 3 \text{ のとき}) \end{cases}$$

$a_0 = 1$ とする

- ▶ このとき, $a_2 = 3 = 2 + 1 = a_1 + a_0$
- ▶ つまり, 上の漸化式は $n \geq 2$ において成立

書き換えた漸化式

$$a_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ 2 & (n=1 \text{ のとき}) \\ a_{n-1} + a_{n-2} & (n \geq 2 \text{ のとき}) \end{cases}$$

2 各辺を $A(x)$ によって表す

$$\begin{aligned} \sum_{n=2}^{\infty} a_n x^n &= \sum_{n=2}^{\infty} a_{n-1} x^n + \sum_{n=2}^{\infty} a_{n-2} x^n \\ \text{左辺} &= \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n - a_0 - a_1 x = A(x) - 1 - 2x \\ \text{右辺} &= \sum_{n=1}^{\infty} a_n x^{n+1} + \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^{n+2} \\ &= x \left(\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n - a_0 \right) + x^2 \left(\sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n \right) \\ &= xA(x) - x + x^2 A(x) \end{aligned}$$

3 得られた $A(x)$ の級数展開を導く

$$A(x) = -\frac{x+1}{x^2 + x - 1}$$

このとき, $-\frac{x+1}{x^2 + x - 1}$ の部分分数分解が必要

- ▶ 「分母 = 0」を x について解くと, $x = \frac{-1 \pm \sqrt{5}}{2}$ となる
- ▶ したがって, ある定数 a, b が存在して

$$-\frac{x+1}{x^2 + x - 1} = \frac{a}{x - \frac{-1+\sqrt{5}}{2}} + \frac{b}{x - \frac{-1-\sqrt{5}}{2}}$$

- ▶ この a, b を定める (次のページ)

母関数を用いた漸化式の解法

$$\begin{aligned} -\frac{x+1}{x^2+x-1} &= \frac{a}{x-\frac{-1+\sqrt{5}}{2}} + \frac{b}{x-\frac{-1-\sqrt{5}}{2}} \\ \therefore -(x+1) &= a\left(x-\frac{-1-\sqrt{5}}{2}\right) + b\left(x-\frac{-1+\sqrt{5}}{2}\right) \\ \therefore -x-1 &= (a+b)x + \left(-\frac{-1-\sqrt{5}}{2}a - \frac{-1+\sqrt{5}}{2}b\right) \end{aligned}$$

したがって、

$$\begin{aligned} -1 &= a+b \quad \text{かつ} \\ -1 &= -\frac{-1-\sqrt{5}}{2}a - \frac{-1+\sqrt{5}}{2}b \end{aligned}$$

これを a, b に関して解くと

$$a = \frac{-5-\sqrt{5}}{10}, \quad b = \frac{-5+\sqrt{5}}{10}$$

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 17 / 53

母関数を用いた漸化式の解法

したがって、

$$\begin{aligned} A(x) &= -\frac{x+1}{x^2+x-1} = -\frac{5+\sqrt{5}}{10} \frac{1}{x-\frac{-1+\sqrt{5}}{2}} - \frac{5-\sqrt{5}}{10} \frac{1}{x-\frac{-1-\sqrt{5}}{2}} \\ &= \frac{5+3\sqrt{5}}{10} \frac{1}{1-\frac{\sqrt{5}+1}{2}x} + \frac{5-3\sqrt{5}}{10} \frac{1}{1-\frac{\sqrt{5}-1}{2}x} \\ &= \frac{5+3\sqrt{5}}{10} \sum_{n=0}^{\infty} \left(\frac{\sqrt{5}+1}{2}\right)^n x^n + \frac{5-3\sqrt{5}}{10} \sum_{n=0}^{\infty} \left(\frac{\sqrt{5}-1}{2}\right)^n x^n \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} \left(\frac{5+3\sqrt{5}}{10} \left(\frac{\sqrt{5}+1}{2}\right)^n + \frac{5-3\sqrt{5}}{10} \left(\frac{\sqrt{5}-1}{2}\right)^n \right) x^n \end{aligned}$$

したがって、任意の $n \geq 0$ に対して、

$$a_n = \frac{5+3\sqrt{5}}{10} \left(\frac{\sqrt{5}+1}{2}\right)^n + \frac{5-3\sqrt{5}}{10} \left(\frac{\sqrt{5}-1}{2}\right)^n$$

□

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 18 / 53

目次

① 母関数

② 線形漸化式の厳密解法

③ より複雑な漸化式の解法

④ カタラン数：定義と導出

⑤ 今日のまとめ

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 19 / 53

例題 1：直感を得る

例題 1

$$a_n = \begin{cases} 3 & (n=1 \text{ のとき}) \\ 4a_{n-1} - 3^{n-1} & (n \geq 2 \text{ のとき}) \end{cases}$$

- ▶ $a_1 = 3$
- ▶ $a_2 = 4a_1 - 3^{2-1} = 4 \cdot 3 - 3^1 = 12 - 3 = 9$
- ▶ $a_3 = 4a_2 - 3^{3-1} = 4 \cdot 9 - 3^2 = 36 - 9 = 27$
- ▶ $a_4 = 4a_3 - 3^{4-1} = 4 \cdot 27 - 3^3 = 108 - 27 = 81$
- ▶ ...

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 21 / 53

例題 1：母関数を用いた解法 Step 1

1 両辺に x^n を掛けて、級数を作る $n \geq 1$ のとき

$$\begin{aligned} a_n &= 4a_{n-1} - 3^{n-1} \\ \therefore a_n x^n &= 4a_{n-1} x^n - 3^{n-1} x^n \end{aligned}$$

したがって、

$$\sum_{n \geq 1} a_n x^n = \sum_{n \geq 1} 4a_{n-1} x^n - \sum_{n \geq 1} 3^{n-1} x^n$$

母関数を $A(x) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ と書くことにする

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 23 / 53

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 20 / 53

例題 1：母関数を用いた解法 Step 0

0 a_0 を便宜上定める

例題 1

$$a_n = \begin{cases} 3 & (n=1 \text{ のとき}) \\ 4a_{n-1} - 3^{n-1} & (n \geq 2 \text{ のとき}) \end{cases}$$

 $a_0 = 1$ とする

- ▶ このとき、 $a_1 = 3 = 4 \cdot 1 - 1 = 4a_0 - 3^0 = 4a_1 - 3^{1-1}$
- したがって、考えている漸化式は次のように書き換えられる

例題 1：書き換えた漸化式

$$a_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ 4a_{n-1} - 3^{n-1} & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 22 / 53

例題 1：母関数を用いた解法 Step 2

2 各辺を $A(x)$ によって表す

$$\begin{aligned} \sum_{n \geq 1} a_n x^n &= \sum_{n \geq 1} 4a_{n-1} x^n - \sum_{n \geq 1} 3^{n-1} x^n \\ \text{左辺} &= \sum_{n \geq 0} a_n x^n - a_0 = A(x) - 1 \\ \text{右辺} &= \sum_{n \geq 0} 4a_n x^{n+1} - \sum_{n \geq 0} 3^n x^{n+1} \\ &= 4x \sum_{n \geq 0} a_n x^n - x \sum_{n \geq 0} (3x)^n \\ &= 4xA(x) - \frac{x}{1-3x} \end{aligned}$$

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 24 / 53

例題 1：母関数を用いた解法 Step 3

③ 得られた式を $A(x)$ に関して解く

$$\begin{aligned} A(x) - 1 &= 4xA(x) - \frac{x}{1-3x} \\ \therefore (1-4x)A(x) &= 1 - \frac{x}{1-3x} \\ \therefore A(x) &= \frac{1}{1-4x} - \frac{x}{(1-3x)(1-4x)} \\ &= \frac{1-3x}{(1-3x)(1-4x)} - \frac{x}{(1-3x)(1-4x)} \\ &= \frac{1-4x}{(1-3x)(1-4x)} = \frac{1}{1-3x} \end{aligned}$$

$A(x)$ を x の有理関数として表現できた

例題 1：母関数を用いた解法 Step 4

④ 得られた $A(x)$ の級数展開を導く

$$A(x) = \frac{1}{1-3x}$$

したがって、

$$A(x) = \sum_{n=0}^{\infty} 3^n x^n$$

したがって、任意の $n \geq 0$ に対して

$$a_n = 3^n$$

□

例題 2

例題 2

$$a_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ 3a_{n-1} + 2n & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

これを解いてみる

例題 2：直感を得る

例題 2

$$a_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ 3a_{n-1} + 2n & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

- ▶ $a_0 = 1$
- ▶ $a_1 = 3a_0 + 2 \cdot 1 = 3 \cdot 1 + 2 \cdot 1 = 5$
- ▶ $a_2 = 3a_1 + 2 \cdot 2 = 3 \cdot 5 + 2 \cdot 2 = 19$
- ▶ $a_3 = 3a_2 + 2 \cdot 3 = 3 \cdot 19 + 2 \cdot 3 = 63$
- ▶ $a_4 = 3a_3 + 2 \cdot 4 = 3 \cdot 63 + 2 \cdot 4 = 197$
- ▶ ...

例題 2：母関数を用いた解法 Step 1

① 両辺に x^n を掛けて、級数を作る

$n \geq 1$ のとき

$$\begin{aligned} a_n &= 3a_{n-1} + 2n \\ \therefore a_n x^n &= 3a_{n-1} x^n + 2n x^n \end{aligned}$$

したがって、

$$\sum_{n \geq 1} a_n x^n = \sum_{n \geq 1} 3a_{n-1} x^n + \sum_{n \geq 1} 2n x^n$$

母関数を $A(x) = \sum_{n=0}^{\infty} a_n x^n$ と書くことにする

例題 2：母関数を用いた解法 Step 2 (続き)

右辺の整理 (続き)

$$\begin{aligned} \text{右辺} &= 3x \sum_{n \geq 0} a_n x^n + 2x \sum_{n \geq 0} n x^n + 2x \sum_{n \geq 0} x^n \\ &= 3x A(x) + 2x \frac{x}{(1-x)^2} + 2x \frac{1}{1-x} \\ &= 3x A(x) + \frac{2x^2}{(1-x)^2} + \frac{2x(1-x)}{(1-x)^2} \\ &= 3x A(x) + \frac{2x}{(1-x)^2} \end{aligned}$$

例題 2：母関数を用いた解法 Step 3

③ 得られた式を $A(x)$ に関して解く

$$A(x) - 1 = 3x A(x) + \frac{2x}{(1-x)^2}$$

$$\therefore (1-3x)A(x) = 1 + \frac{2x}{(1-x)^2}$$

$$\therefore A(x) = \frac{1}{1-3x} + \frac{2x}{(1-x)^2(1-3x)}$$

$A(x)$ を x の有理関数として表現できた

例題1：母関数を用いた解法 Step 4

4 得られた $A(x)$ の級数展開を導く

$$A(x) = \frac{1}{1-3x} + \frac{2x}{(1-x)^2(1-3x)}$$

部分分数分解を試みる、つまり

$$\frac{2x}{(1-x)^2(1-3x)} = \frac{a}{1-x} + \frac{bx}{(1-x)^2} + \frac{c}{1-3x}$$

となる a, b, c が一意に存在するので、それを定める（次のページ）

例題1：母関数を用いた解法 Step 4（続き）

したがって、

$$\begin{aligned} A(x) &= \frac{1}{1-3x} + \frac{2x}{(1-x)^2(1-3x)} \\ &= \frac{1}{1-3x} - \frac{3}{2} \cdot \frac{1}{1-x} - \frac{x}{(1-x)^2} + \frac{3}{2} \cdot \frac{1}{1-3x} \\ &= \frac{5}{2} \cdot \frac{1}{1-3x} - \frac{3}{2} \cdot \frac{1}{1-x} - \frac{x}{(1-x)^2} \\ &= \frac{5}{2} \cdot \sum_{n=0}^{\infty} 3^n x^n - \frac{3}{2} \cdot \sum_{n=0}^{\infty} x^n - \sum_{n=0}^{\infty} n x^n \\ &= \sum_{n=0}^{\infty} \left(\frac{5}{2} \cdot 3^n - \frac{3}{2} - n \right) x^n \end{aligned}$$

したがって、任意の $n \geq 0$ に対して、 $a_n = \frac{5}{2} \cdot 3^n - \frac{3}{2} - n$

カタラン数

カタラン数とは？

次の漸化式で定められる数 C_n を第 n カタラン数と呼ぶ

$$C_n = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ \sum_{i=0}^{n-1} C_i C_{n-i-1} & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

例：

- ▶ $C_1 = C_0 C_0 = 1 \cdot 1 = 1$
- ▶ $C_2 = C_0 C_1 + C_1 C_0 = 1 \cdot 1 + 1 \cdot 1 = 2$
- ▶ $C_3 = C_0 C_2 + C_1 C_1 + C_2 C_0 = 1 \cdot 2 + 1 \cdot 1 + 2 \cdot 1 = 5$
- ▶ $C_4 = C_0 C_3 + C_1 C_2 + C_2 C_1 + C_3 C_0 = 1 \cdot 5 + 1 \cdot 2 + 2 \cdot 1 + 5 \cdot 1 = 14$

目標：第 n カタラン数を表す式を母関数による方法で導く

カタラン数：母関数による解法 Step 2

2 各辺を $C(x)$ によって表す

$$\begin{aligned} \text{左辺} &= \sum_{n=1}^{\infty} C_n x^n = \sum_{n=0}^{\infty} C_n x^n - C_0 = C(x) - 1 \\ \text{右辺} &= \sum_{n=1}^{\infty} \left(x \sum_{i=0}^{n-1} C_i C_{n-i-1} x^{n-1} \right) \\ &= x \sum_{n=1}^{\infty} \sum_{i=0}^{n-1} C_i C_{n-i-1} x^{n-1} \\ &= x \sum_{n=0}^{\infty} \sum_{i=0}^n C_i C_{n-i} x^n \end{aligned}$$

例題1：母関数を用いた解法 Step 4 — 部分分数分解

$$\begin{aligned} \frac{2x}{(1-x)^2(1-3x)} &= \frac{a}{1-x} + \frac{bx}{(1-x)^2} + \frac{c}{1-3x} \\ \therefore 2x &= a(1-x)(1-3x) + bx(1-3x) + c(1-x)^2 \\ &= a(1-4x+3x^2) + b(x-3x^2) + c(1-2x+x^2) \\ &= (3a-3b+c)x^2 + (-4a+b-2c)x + (a+c) \end{aligned}$$

したがって、

$$\begin{aligned} 0 &= 3a-3b+c && \text{かつ}, \\ 2 &= -4a+b-2c && \text{かつ}, \\ 0 &= a+c \end{aligned}$$

この方程式を解くと、次が得られる

$$a = -\frac{3}{2}, \quad b = -1, \quad c = \frac{3}{2}$$

目次

① 母関数

② 線形漸化式の厳密解法

③ より複雑な漸化式の解法

④ カタラン数：定義と導出

⑤ 今日のまとめ

カタラン数：母関数による解法 Step 1

1 両辺に x^n を掛けて、級数を作る

$n \geq 1$ のとき

$$\begin{aligned} C_n &= \sum_{i=0}^{n-1} C_i C_{n-i-1} \\ C_n x^n &= \left(\sum_{i=0}^{n-1} C_i C_{n-i-1} \right) x^n = x \sum_{i=0}^{n-1} (C_i C_{n-i-1} x^{n-1}) \end{aligned}$$

したがって、

$$\sum_{n=1}^{\infty} C_n x^n = \sum_{n=1}^{\infty} \left(x \sum_{i=0}^{n-1} C_i C_{n-i-1} x^{n-1} \right)$$

母関数を $C(x) = \sum_{n=0}^{\infty} C_n x^n$ と書くことにする

カタラン数：母関数による解法 Step 2（続き）

$$\begin{aligned} \text{右辺} &= x \sum_{n=0}^{\infty} \sum_{i=0}^n C_i C_{n-i} x^n \\ &= x \sum_{i=0}^{\infty} \sum_{n=i}^{\infty} C_i C_{n-i} x^n \\ &= x \sum_{i=0}^{\infty} \sum_{j=0}^{\infty} C_i C_j x^{i+j} \\ &= x \sum_{i=0}^{\infty} \sum_{j=0}^{\infty} C_i x^i C_j x^j \\ &= x \left(\sum_{i=0}^{\infty} C_i x^i \right) \left(\sum_{j=0}^{\infty} C_j x^j \right) = x C(x)^2 \end{aligned}$$

③ 得られた式を $C(x)$ に関して解く

$$\begin{aligned} C(x) - 1 &= xC(x)^2 \\ xC(x)^2 - C(x) + 1 &= 0 \\ C(x) &= \frac{1 \pm \sqrt{1 - 4x}}{2x} \end{aligned}$$

どちらが正しいのか？

ここで, $\lim_{x \rightarrow 0} C(x) = C_0 = 1$ なので,

▶ $C(x) = \frac{1 + \sqrt{1 - 4x}}{2x}$ だとすると,

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 + \sqrt{1 - 4x}}{2x} = \infty$$

となり, 合わない

▶ $C(x) = \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2x}$ だとすると,

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 - (1 - 4x)}{2x(1 + \sqrt{1 - 4x})} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{2}{1 + \sqrt{1 - 4x}} = 1$$

となり, 合う

したがって, $C(x) = \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2x}$ である

③ 得られた $C(x)$ の級数展開を導く

$$\begin{aligned} C(x) &= \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2x} \\ xC(x) &= \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2} \end{aligned}$$

ここで, $C(x) = \sum_{n=0}^{\infty} C_n x^n$ なので,

$$xC(x) = \sum_{n=0}^{\infty} C_n x^{n+1} = \sum_{n=1}^{\infty} C_{n-1} x^n$$

つまり, $xC(x)$ は次の数列 $\{a_n\}$ の母関数

$$a_n = \begin{cases} 0 & (n = 0 \text{ のとき}) \\ C_{n-1} & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

まずは, $xC(x)$ の級数展開を導く

$$\begin{aligned} \therefore xC(x) &= \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2} \\ &= \frac{1}{2} \left(1 - \sum_{n=0}^{\infty} \binom{1/2}{n} (-4x)^n \right) \\ &= \frac{1}{2} \left(1 - \left(1 + \sum_{n=1}^{\infty} \binom{1/2}{n} (-4x)^n \right) \right) \\ &= -\frac{1}{2} \sum_{n=1}^{\infty} \binom{1/2}{n} (-4x)^n \\ &= \sum_{n=1}^{\infty} \left(-\frac{1}{2} \binom{1/2}{n} (-4)^n \right) x^n \end{aligned}$$

したがって,

$$\text{任意の } n \geq 1 \text{ に対して } C_{n-1} = -\frac{1}{2} \binom{1/2}{n} (-4)^n$$

以上の議論より, 任意の $n \geq 1$ に対して,

$$C_{n-1} = \frac{1}{n} \binom{2n-2}{n-1}$$

つまり, 次の公式が得られる

任意の $n \geq 0$ に対して

$$C_n = \frac{1}{n+1} \binom{2n}{n}$$

ここで, $\lim_{x \rightarrow 0} C(x) = C_0 = 1$ なので,

▶ $C(x) = \frac{1 + \sqrt{1 - 4x}}{2x}$ だとすると,

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 + \sqrt{1 - 4x}}{2x} = \infty$$

となり, 合わない

▶ $C(x) = \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2x}$ だとすると,

$$\lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2x} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{1 - (1 - 4x)}{2x(1 + \sqrt{1 - 4x})} = \lim_{x \rightarrow 0} \frac{2}{1 + \sqrt{1 - 4x}} = 1$$

となり, 合う

したがって, $C(x) = \frac{1 - \sqrt{1 - 4x}}{2x}$ である

補題 (テイラー展開を使うことで証明できる (証明は省略))

任意の実数 α に対して, $|x| < 1$ であるとき,

$$(1+x)^\alpha = \sum_{n=0}^{\infty} \binom{\alpha}{n} x^n$$

ただし,

$$\binom{\alpha}{n} = \begin{cases} 1 & (n=0 \text{ のとき}) \\ \frac{\alpha(\alpha-1)(\alpha-2)\cdots(\alpha-n+1)}{n!} & (n \geq 1 \text{ のとき}) \end{cases}$$

すなわち,

$$\sqrt{1-4x} = \sum_{n=0}^{\infty} \binom{1/2}{n} (-4x)^n$$

$$\begin{aligned} -\frac{1}{2} \binom{1/2}{n} (-4)^n &= -\frac{1}{2} \frac{\frac{1}{2}(\frac{1}{2}-1)(\frac{1}{2}-2)\cdots(\frac{1}{2}-n+1)}{n!} (-4)^n \\ &= -\frac{1}{2} \frac{-2(-2+4)(-2+8)\cdots(-2+4n-4)}{n!} \\ &= \frac{2 \cdot 6 \cdots (4n-6)}{n!} = \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{n!} 2^{n-1} \\ &= \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{n!} 2^{n-1} \frac{(n-1)!}{(n-1)!} \\ &= \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{n!} 2^{n-1} \frac{1 \cdot 2 \cdots (n-1)}{(n-1)!} \\ &= \frac{1 \cdot 3 \cdots (2n-3)}{n!} 2^{n-1} \frac{2 \cdot 4 \cdots (2n-2)}{(n-1)!} \\ &= \frac{(2n-2)!}{n!(n-1)!} = \frac{1}{n} \frac{(2n-2)!}{(n-1)!(n-1)!} = \frac{1}{n} \binom{2n-2}{n-1} \end{aligned}$$

任意の $n \geq 0$ に対して

$$C_n = \frac{1}{n+1} \binom{2n}{n}$$

任意の自然数 $a \geq 1$ と任意の自然数 $b \geq 1$ に対して, $a \geq b$ であるとき,

$$\left(\frac{a}{b}\right)^b \leq \binom{a}{b} \leq \left(\frac{ea}{b}\right)^b$$

したがって, カタラン数に対する以下の上界と下界が得られる

$$\frac{2^n}{n+1} \leq C_n \leq \frac{(2e)^n}{n+1}$$

∴ カタラン数は指指数関数的に増加する

カタラン数は様々な場面で登場



リチャード・スタンレイ

- ▶ MIT 数学科の教授
- ▶ 組合せ論の研究者（大家）
- ▶ カタラン数の組合せ的解釈を 214 個収集した
(2015 年出版)

その中のいくつか：演習問題参照

http://en.wikipedia.org/wiki/Richard_P._Stanley

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 49 / 53

① 母関数

② 線形漸化式の厳密解法

③ より複雑な漸化式の解法

④ カタラン数：定義と導出

⑤ 今日のまとめ

今日の目標

今日の目標

母関数を用いて漸化式を解けるようになる

- ▶ 線形漸化式の解法
- ▶ より複雑な漸化式の解法
- ▶ カタラン数

注意

今日扱ったのは、母関数に関する初步

- ▶ 母関数にまつわる理論は膨大
- ▶ 近年では「解析的組合せ論」という分野に成長

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 51 / 53

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 50 / 53

今日のまとめ

残った時間の使い方

- ▶ 演習問題をやる
 - ▶ 相談推奨（ひとりでやらない）
- ▶ 質問をする
 - ▶ 教員と TA は巡回
- ▶ 退室時、小さな紙に感想などを書いて提出する ← 重要
 - ▶ 内容は何でも OK
 - ▶ 匿名で OK

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 52 / 53

岡本 吉央 (電通大)

離散数理工学 (4)

2015 年 11 月 10 日 52 / 53